862
98

南都名所記

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

南都名所記

862
98
図書寮
除籍

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

本書享保十五年ノ寫本ニシテ寫本ニモ記文ハ寛文七年之
永祿年間ニ松上ニアル大佛殿ノ礎石ノアトバカリニテ取
之ル人モアレト本書ノ者ハ大ニ古ク
本書序文ニ洛陽ノ名所旧跡ヲカキ集テ京童ト名付ケル双
紙ヲ是ヲ其ニ童ニヒトシキカナレハ幼ナキ人ノ
題号ヲ南都幼ナムワラヒト称スヘキナラン
シテハ近宮年間ノ南都名所集奈良ノ名所記ト
モノナリ書中春日參礼ノ行列次第ハ
高木利太

文日ハ移洋洲ノヲヲニ霊地多シト云ヘトモ取分勢州南都
ノ神社佛閣ハ勿論世ニ知遍セリト雖及ヘル人稀ノ法
師雖然ニ猶ケル二收ノ事ニモ先達ハアラマホシキ事ナリ
ト云ヘリ予カ無智ノ眷ヲ以文ヲ想像(ヲモヒヤリ)テ自然洛ナン時ノ業因
着ノタメニ昔ヲ知ラニ事ヲ得サセヨトスリモト
ヨリ愚成身ナレハ委事ヨハイサ白雪ノフルキ人ノ云事
セムヲ有増筆ニ任スルモノナリ寛文七年
春集テ京童ト名付ケル双紙有増先モ其童ニヒトシキ
於ナレハヨサナムワヒトヤ云ン張ル所アラハ名ニシヲフシサヨ

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

キモノハシワザト殺サルヘキヒワナ
ノ餌カハルサカシキ更ヨシテ人ノ朝ヨカヘリミザルモ少
年ノ徳俟トスルモノナラン

興福寺　元明天皇御宇和銅三年庚戌大織冠御建
之処也方角四町有　法相宗也丹
山階寺　天智天皇之和銅二年ヨリ三百三拾七年目　法令泉流
御宇永義元年甲戌十二月九日四月諸堂焼失寛文
七年丁未三百九二年二度　法流泉流御宇
永義三年戊子三月二日堂僧有之　寛文七年
丁未三百九年目永義三年ヨリ十三年目　辛康(コウ)三年
庚子五月四日法華経文　寛文七年丁未ヨリ八年目法流三年
丙辰三月十八日伝

高木家藏

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

寛文七年迄六百一年　第二度　治暦二年ゟ
永九年同　陽川院御宇　永保二年而ゟ九月廿六日焼失
寛文七年迄五百七拾三年　第四度　嘉保二年ヨリ
九年同　康和五年　癸未　後冷泉有之　寛文七年迄五百六十
五年　康和六年ゟ七十九日　高倉院御宇　治承四年
庚子十二月廿八日焼失　寛文七年迄五百八拾八年　第五度
治承記年ゟ十六年同　後高松院御宇　建久六年甲子
六月廿二日遷宮　後冷泉有之　寛文七年迄五百八拾年
建久六年ヨリ八十四年同　後宇多院御宇　建治二年丁丑
七月廿六日後冷泉院失　寛文七年迄三百九十一年　第六
度　建治二年ヨリ廿四年同　後伏見院御宇　正安二年
庚子十二月六日後冷泉有之　寛文七年迄三百九十八年　正安二
年ヨリ廿八年同　永暦二年　丁卯三月十六日雷火　寛文
七年迄三百四年　第七度　永暦二年ヨリ七十三年同
後水尾院御宇　應永六年　己卯三月十日遷宮　寛文七年迄
二百六拾九年
南大門　二王有此所二天正月十二日心經會ト云事有影旅
二月七日ヨリ右日迄称名七日有　豊福寺ノ衆徒上

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

二最(ツヒニ)頭三于之化下知之矣而ノ所ノ自代ハ芝辰于見メモノ也
・薬師ト云物ノ之于法人堂ヲ又云月廿七日春日若宮ノ
参礼ノ御服此所ニ于式ノ事有
中門・昆沙門有廃又神體化ノ御作也
元明天皇御宇和銅二年庚戌演海云帝建之也寛文
金堂
七年ヨリ九百六十八年ニ成也内ニ釋迦如来ト云リ
脇士ハ藥王菩薩上無量意(ジン)菩薩并也多門持國増
長廣目ノ四天王有此佛ハ鎌足ノ為ニ入鹿大臣退治ノ願
也中尊ニ賢劫(バウ)千仏ト成モノハ少異九羽目ナレハ毫ハ御薑

未成就也サル時也云ニ依于御薑ノ國ニ長久也春月ノ
・神木此所ニ渡ラセ給フ取若サ松也給ヒケルトナン
ニ笠山云事ヲ
云如ノ月ヲ云渡ノ事

云日大明神江宗守護ノ神ニ于ニ
于堂雪ノ窓(マド)ノウチ二八五重唯識ノ覚月明々タリ七寶
庄嚴ノ巻柱有ハ大半成金灯籠有如月
・龍王ノ棲(スミカ)ト川堂ノ前ニ廻廊有
八日二此所ニ于仏生會ト云支有佛所誕生ノ御取回天王天降(クダリ)

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

リテ守護ノ躰ヨテナフ也鬼(バケ)ノ長キ面ニ似テ僕従ハ鬼
長ノ条下云ヲ指ハセリ是何給人ノ楽ヲリ此等ノ音ハ釋ラノ
御座前ヨリ学ヒフト也無相伝ニテ吹ル傳心也

講堂　天平十八年丙戌　長屋大臣(ハシノ女)ノ
発願男悪義大臣(ビ)為母ノ造之也　寛文七年ニ
九百九二年成　御本尊ハ上品弥陀三尊也四天王有儀
作也此所ニテ二月十八日ニ弘法大師ノ被ヲ
ル十リ此堂ノ東ノ方成破風ニ来ル此ノ
悪キ跡細キ釘二迄来ト脊ニ書ル程ニ押ニ被ヨリ鉄

ヲ落ニテ夢ヲ懐ク九事有東ニ鰐様ノ面ニ鐘様有童ノ
ヲ法ニ天平成堂有着ハ二ツ有ケレ尼イツノ比カ二ツハ此ノ比ノ焼ル所也
東金堂　元正天皇御願天平二十年代ヨ

聖武天皇御願也寛文七ニ九百九年二十九
御本尊ハ薬師如来也日光月光十二神有脇士ハ文殊
維摩(エイ)毘沙門ノ躰也四天王有此堂ニ閻浮檀金(エン)佛ヲハ
ニテ天佛ニ宝物ノ釋迦如来也此脇士ハ弥勒虚空蔵ナリ
七月十八日諸人今ニ詣ル之間所ニ宇賀神有板佛有
弘法大師御作也是前ニ堂ノ水ト云井有

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

五重塔　天平二年庚午四月二光明皇后御願也実文四之
九百二十二年二成　五和銅来ヨハ三ヶ又塔ノ高サ十丈
丈二尺有但興福寺一町ニ有四丈ノ積リナレハ四々十六丈有ヘ
キ事ナレ共春日御社ヨリ高ク成ニ依テ又一尺也ト云ヘリ
塔ノ東二月日ノ宮ヲ毛八年分ノ表二有ニヲ勅諚ニテ九也
其辺ニ大湯屋ノ堂トイフ有毛ハ興福寺建立ノ時湯
ヲワカセル堂ト云ヘリ此ノ廿七渡ハ八尺程有一ツハ堂ノ内ニ有
一ツハ外ニ地ニ埋テ有其辺ニテ正月十六日霜月九六日蜂（ホウ）
起ト云事有其服大鳥居ノ南ニテ唄ヘ興ハ岩淵寺ヘ
ノ薬師寺又ハ薬師寺ヘノ薬
師也等ハ興福寺ノ末寺ヲ九ニ依テ也
禽堂（ニキ）　渡海ニ御影也金堂建立ノ時取代御本尊ハ
千手観音也　閼伽ニ二言観音ト云御歴也
大座ニ亜ニ之ヲ九堂ヲレハ食堂ト書ト云ヘ共有興福寺ノ僧
達ハ堂ニテ堂ニ食物ヲ用ヲマフニ依食堂ト云也ト云堂ノ前
ニ柱ト云ヲハカリ成堂有二月九ニ堂厨（キクヤウ）ト云
三千衆僧ヲニケ九御有ハ堂ノ九ニ堂厨厨ト云堂有役食物ヲ煮
ケ九所也

東室　有興福寺ノ別當等ノ宮ニ籠リ居ル室ナリ此所ニテ九月二日ニ祝儀演ス又有饗ヲ用又東寺ヘ行ヲ還ル事ヲモ記ス

八室條　觀禪院（ビン）ト云所ニ有古ヘノ室ニ八室ノ都ノ八室櫻トヨメルヲモ記ス

是邊ニ東香室跡有大カタノ人家ヲ見ル云々

去月若宮ノ神ヲ祓奉トヤラニ此條ノ祓ヲ指テ庭ニ植ヲカレケル成長ニテ色香殊ニ類ナカリシカハ折ヲ得テ及ハレテ彼條ヲ云ヒケルヨシヲ記ス

古ヘハカナリ彼條ニ雅期ヲ添テ養ヒケル長ケ

八室條ヲ記ス

石木ヲ植ル事ヲ述ス

此祓ヲ數ヶ有テカリ心ヲモノヽ庭ニ植ヘキヤウヤアルトテ又ヲ尚良ノ祓ヘ勅使アリケルト也有雅カリケル例ト也又ヒヨリ已前ノ事ニヤ有ケン彼條義祓ノヨクヨク濟ヌル事ノウラモテ

和ヲ有ノ國ノ祓ヲカリ行ヒケル事ヲ記ス

今ヲ思ヒ出ヌ名ヒロノ人ノ和ガリテ事ヲ演ル

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

元ヨリシテ彼ノ義ヲ演ル多ノ神ヲトス古ケルトナリ又元亨二
酒ヲモルト云事モ此所ヨリ始ルヨシ細有観禅院ニテ二十講ト
云事有奥院等ノ若干僧達ノ行儀ヨリメメ文也四月朔日
ヨリ始ル

西金堂　慶福ノ名天平六年甲戌正月十日光明皇后
御建立也　完文七百二拾四年ニ成也　御本尊
釋迦如来也イヤゾ開眼ナシ白毫ナシ
厨ヨリ入ヌマヲハ自然涌出ノ観音也　経ハ
有薬師如来有四天王有二王ノ鐘打ト云ハ敏達并也

又天燈竜灯有度々ノ事ヲ九ハ天燈龍ノ巻ノ九ハ龍灯也
猶大ハ弘法大師御作也華原磬ハ細有二ツ
有事ハ正法流ト云ニ有此堂ノ南ノ方ニ百九拾二ケ所ニテ洋スナニ調ヲ
文字ノ有近曽彼堂ノ修正ノ度ニ百九拾二ケ所大文字ヨリ堂ヲ
サレタリヨ細有二ツノ

北圓堂　金堂建立ノ後養老四年庚申藤源公
元正天皇御建立也　完文七百四十八年御本
尊ハ弥勒并也此堂ノ内ニ世観無著ト云二祖師有裏辺
ヲ九新坊ト云ニ山邊赤人ノ石像有
以上七堂

南圓堂　閼伽屋ハ藤原冬嗣ノ御建立也　弘仁四年癸巳造立

也春日大明神敬ヒ圓ヒ又ハ寛文七丁未年

二成給ヒ春日ノ惠比大臣ノ流也　御本尊ハ観音不空羂索

也左ノ御眉ニ鹿ノ毛ヲ三ツ生有此ノ御仏ハ

用ニ興福寺六祖ノ御歟有六祖ハ行賀常騰心教善珠玄

賓玄昉也此堂ヘ堂ニ平人上ル事ナラズ但三月二法華會

ト云事ハ長谷川男女貴賤老ニ上ル也

花會ヨリ都テ西向不背王ノ有所ヲ得ス也四濱石ハ有所

不知此堂ノ溜居ニ常ニ会利有西国順礼ノ九番目礼所也

春ノ月ヲ西高ヒ嶺ヒ

ニ望ノ山ヒ晴ヲ霧雲

南岸右近橘左近藤ヲ

浦波落ヲ雪ノ岸ニ遠ヲ

今ヲ業ひ小乃ヲ下亜

元興寺ノ神ノ御前也百萬ノ石臼有

八有テ中絶ニテ有ヲ近年水野石見守殿奇進ニ又テ有

又銀杏ノ木ヲ葉ノ形ハ牧牛芝八春日大明神之ヲ給ヲ

所ト也因玄肪修ヒ之ノ項有又額深ト云有大坂ノ人見ヲ案内

山ト云也カレヲ額縁ト云ハ首南大門ニ日輪山ト云額ノ有ケルヲ
疫ヤミ〳〵繁昌ヲ彼額ヲ礎事有モイブカシキ事也トテ博士ヲ以テ
占ナハセケレハ悪想ナリト占ケリサラハ此額ヲ壊メトテ此所ニ埋
ケルトモ云リ又西金堂ノ額ヲ割ノ象徒ヲ破ントテ云ケルヲ此所ニ埋ミ
ケルト云説平家物語ニ見ヘタリ南ノ巻ノ下ニ聖天宮在リ蓬天宮
有ニ云主云云高城ノ神也云辺十九五ツノ大石ハ般若波羅蜜ノ
五字ヲ書セリ二重ノ塔有寛ノ辮天弘法大師ノ御作也
西室　第二モ云ル如ク首ハ興福寺ノ僧遊審ノ是等ノ室ニ籠リ
居タリトモ也此所ニテ大會ノ時ハ講師ノ着給ル御座有釋尊所説法ノ有サ
マヲ学ヒ也興福寺ノ僧官位日進ム事ト云リ昔ハ云ル物又見苦
ヨシ思ザル也年ノ舞有釋ヲ有給ル如意ヲ諸人ニ令渡ル也先ハ
東南院ノ聖寶僧正傳ヘ給月ヨリ今ニ東大寺ノ什物メリトス云ヘル
大會ノ時興福寺ヘ傳有セラルル也彼如意ノ柵ニ表ニ五柳ヨシホリ
裏ニ獨鈷ノホリ顯密二教ヲ表スル也勅使ヲ給ル四ケ東寺ノ
僧達集テ法問有勘ニキ法事也
中院屋　御本尊ハ地藏菩薩春日御祠傳ノ舎利有二重云有
塔ノ佛ハ釋迦也興福寺ノ僧達今モ此屋ニ籠リ給ル庭
有泉水有西ノ方ナル寶藏ニハ御衆所有興福寺ノ季務

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

一条院北屋ノ西ノ方也史ヨリ小二池有池ノ端ニイヒカイノ宮ト云有又
東ノ方ニ松室仲麿ノ屋敷有西ニ當テ氷林院ト云有
昔度々坂上帝ノ幸也ト云傳
何ト称号ノ也ト云事ヲ不知
此帝ノ讀下給ヒシ御正ト云レシ人住タマヒシ所也
猿沢池　是ハ天竺猴猴池ヲウツス也龍神ヲ祭ル池ノ底ヨリ竜宮ヘ通
ル井有ト云リ西ノ方ニ采女ノ宮有東ニ衣掛柳ト云有
采女ト八天ノ帝ノ上臈也采女身ヲ投シ取彼柳ニ衣ヲ脱掛ケルト也
けきとをふみくゝもる後ぬ乃

池ノ玉藻ヲカリ干ノ礼シ美
此帝ハ采女ノ身ヲ投シ帝御幸ナラセ給日ニ附
ミソメテツリテヨシヒト也

猿沢乃池の柳風服ふくやう
寝くらす昼の三くらし成ぬ

毛衣掛御ノ歌ト云リ猿澤池ノ月八景ノ第三也池ノ成美ノ方ニ
猿澤ト云有毛八弘仁大師松流ニ住セタマイシ時毎日猿菓ノ持
テ来リ大師ニ奉ル或時彼猿死ケルヲ大師此所ニ塚ニ築篤
給日ヒトヘ彼猿ノ供養ヲ待ケル躰ヲ弘法土ニテ作リ給ヒ今ニ松流ニ
アリ

楊貴妃獺安　此所ハ狠也ト云ル注師ノ毛セン庭前ノ楊ノ此所
二植ケル二依テ楊ヲ死ト書ケルト也其ノ楊大キニシ
テ色青ク枝ヨリ此辺ヨリ生ル駒山高天山首城山花ノ嶽天ノ香久山
云野山秋迎嶽山上狩漕山三輪山高安山明東山都山城見ル
左菅森　鳥居道ト云ヒ此辺ヨリ隠ヘ行道有ト云リ其下ニ良
僧川ト云有ヒ南ノ方ノ峯ニ覚明法師ノ石像有此
流ヲ率川ト云ヒ左ノ方ニ浅香山見ル成身院ト云ニ有南ニ興福
寺船　大乗院有其ヨリ西二十町許ト云有弘法大師住セ給ヒシ
所也其辺ニ御霊社有吉備大臣ヲイワヘリ元正天皇ノ遣唐使
野馬臺ノ文ヲ讀ム其ヨリ高坊ト云所ニ横萩石大臣豊成ノ名路
有中比ノ栄良ノ所月代井上源入殿ト云人候悪無道ニテ近辺ノ
石像ヲ取集テ石頭ニセケル彼石像ヲ押取ントモ侍ニテ附侍彼
所ヘ行向テ此石ト云ヒ所彼坊ニ連歌師宴中条心前注表
ニテケルカ霊鳥見ハカク面白有石壇ヒハタメヤスク押トケルヘキ程ヤ
ハト云ケレハ侍向師辺ハヤスニケル連歌師ヒ此石ニ対連歌ニ給ム
白ニ依テ五七ニキト云リ心前取散ヲ愛ヲニケリ此ヲ秋筆ニヤ有ケン
引汲坊ヒ乾吹石ノ外
又帝通ニハ老神ヲ荒ケ荒キ年ヒノ心ヲ

成弁カ少柳ニ半氏ニ北發白ノ心感ニ彼石ヲ引ケテコソヤサ
ニケレ　又辺ニ誕生寺ト云有是ハ中将姫生レサセ給ヒシ所也
大御堂　御本尊ハ落陀如来也三十講知月十六日ヨリ此所ニテ有
鐘樓有此邊ニ源義経ノ是ヲ聞テ名ヲ釋院ト云ニ有
大鳥居　春月御祭礼ニ此所ニテ武々ノ事有是ヲ松下ノ祭ト
云也　行列次第
一番供人組ニ赤衣ノ仕丁十二人半纏破掛布ヲ引ク人ハ白衣
ヲ持名石ニ彼次ニ鳥桒ノ供人十人諸従日使衆徒中最頭ノ前ニ
テ音樂有其外供人數騎彼ノ供人白撥最末ニ業ノ役ヲ引退
カケ冠ヲ着又冠ニ造リ花ヲ付同宝冠ヲ天月使
寶冠着又是ハ開白殿御名代也但ニ冠ニ藤ノ作リ花ヲ指又ニ
鷺ヲ置ケル笠ヲ持掛ケル也
二番巫女狩神ヲ業良ノ神ヲ御津殿ノ御神ヲ鳥桒紙半笠持掛ケ
三番幼男ニ騎白張持製桒ニ弓ノ箭ヲ負ケル
四番猿樂四座ニ行ニ彼ノ開口舞有金春金剛ハ弓矢ノ請言ヲ
語觀世宝生ハ船ノ読言ヲ語也
五番馬頭児五騎是ハ供奉ノ僧仲ニ講(ヒ)緩講ノ官位ノ衆ヨリ
名弁ニ迎テ五騎云ケ社進事也一騎々ニ物ヲテ異敬躰ニテ相

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

伝ニテ渡ル也馬頭児ハ紅ノ手綱ニ山吹ノ尾ヲ一筋真中ニ結前髪ノ撥(トゲ)梁ニ色指(イロザシ)後着ニテ浅二社毋ノ作リ花ノ摺(スリ)置ヲトテ一人宛引組(ヒキクミ)ニ白張撥梁ニ色ノ指貫ニ白張撥梁ニ色ノ狩衣ニ紅ノ袴ヲ金ノ深水浅ニテ綾(アヤ)ノ内伝ニ物藻ノ杖ニ経(タテ)毋ヲ着ニ白張撥梁ニ赤綺ノ数有末額(リ)ヲ一足宛腰(コシ)ニ付ル

六番競(ケイ)馬五騎撥梁ハ加茂ノ競馬ノ如シ

七番的射之舞慣(ナラ)ヒ赤衣先ヲ仕テ々度ト云児扇(ヒオウ)ノ矢ヲ負(ズイ)随(シタガ)ヒ

騎奥ヨリ着ニテ渡ル張皆持右何(イズ)馬ニ上ル也的七番ノ内ハ児(ヒオウ)従(シタガ)ヒ一人宛相伝ニ渡ル也尤大和国

侍ノ名代徴(シルシ)馬乗折(オリ)舞慣ヲ直垂(ヒタタレ)数十人

八番侍(サブラヒ)舞慣ヲ稽直垂ヲ着ニ渡ニ帯(オビ)ノ如ク成旗(ハタ)ヲ指也

八番将馬数十疋毛(ケ)ハ和(ヤワラ)加和行セラル大名在ヨリお(カリ)ル也馬毎ニ舎人

数十人奉行相伝ニテ渡ル同家中ノ馬ヲ也々ニ駈(カケ)リ渡ル也

九番騎大刀小大刀数百渡ル先ハ春日御宮物也変成(ヘンジョウ)流ト云ヨリ

お(カ)ル彼変成ニテ霜月九日ニ御湯之有(アル)ヲ乗ヨリ組(クミ)朝雑(ゾウ)子(ネ)ヲ免(ユル)程(ホド)ホヲ賛(ニヘ)ニ筋也

十番願主人位十騎馬乗ヲ相伝ニテ渡ル先ハ前大和侍所祭礼

ヲ執行セニ任長川(ナガカワ)ノ例長川統数有等(ラ)故(ユエ)ヲ相勤ヲ細有(アル)事之

十一番鑓(ヤリ)千余本是モ大和国ヨリ代官ヲ以テ被仰付候ト云々
十二番田楽二村本座新座合九人ノ内ヨリ壬(ミ)輪本高足色々曲ヲ仕テ
渡ル也一籐(トウ)月半笠下ヲ帷子ヨリ上ハ金入ノ襖乗二様ノ着ヲ
第ノ後二籐注師数度ヲ尽シ六人ハ輪本ノ役ノ人ハ各数ノ役
但シ林机(ヨウギ)二腰ヲ掛色々神ヨ渡ル也 行烈ノ次第如此
南ニ鬼(オニ)籌山ト云有之是ハ寺ノ鐘ヲ
此山ヘカクレケル也ト也 其心ヲ連歌ノ発句ニ
勝敷乃月よりうへ(ママ)ハ雲の峯 知足 辰ノ刻ニ
能始ト云有源義経右馬山ヨリ落テ被切腹ニ限ニ在リテ云々

ノ者乃有間奥(オク)ノ小平有歟然ハ
ノ眼京ヨリ見ル舞ノ文也 北ニ当ノ森ノ石(ソ)
能ヲ作リ開演仕(ツカマツ)ル覆金ノ新御願所ニ
春日野 春日大鳥井ヨリ東ヲ云ト(イ)ヘリ前ニ此辺野ニテ有ケル
所 大明神此山ニ数百ヨリ仕来ル人頭長(オサ)ニ九ル
神ノ恵ミ深ニヨリテ今ハ鳥(トリ)ノ橋(ハシ)ト云ヨリ東ニ吹野有
是ヲ云ヘキ力但シ春日野ハ神領也故鳥(トリ)ノ御供ヲ勤ル村ノ掛ル所ト也
春日野ノ鹿八景ノ第一也
国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

[illegible]
春日野の南の方の野も生くるよ
今幾日ありてか葉偏て冬
その北の野も方後先もなり
まそに三笠の山も霞の月
隠(ヒノ)森を北辺也トいふ野もの鏡池鷺(サギ)原ト云所ニ有ト云都
成水ト云へり

蕾(つぼみ)める野もの方後先もなり
ありしありのすさみ
[illegible]

雪消(きえ)澤 同ニアラストいふ

雪ふれる雪消の方ぞ春ハ来る
[illegible]

別当ハ山ノ下ト云ヨリ高畠へ行道也

御蔵所 霜月廿七日若宮御祭礼ノ時此所ニ仮(カリ)ノ御殿を也同ク云

日ノ法取天明神此所ニ御お成神主社家祢宜衣逢ノ係

拳セラルヽ云ハ十一月ノ夜ヨリ乱舞ノ有ハ廿七日社頭ノ行烈相済テ各宿

主人ヨリ流鏑(ヤブサメ)馬有衆徒最最頭三テ下知ヲ給ヲ其後神前ニテ給人

人舞百二十番有其間二相撲十番有慶祝ノ儀ヲ遂ル行ヒ八幡

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

コノ
綱住地其外式々有ト云ヘ𪜈依度神秘略之請間ヨリレ左右人御歟ノ
御方ヘ敷設ツマリ事而落カ如ク其後速ニ食トレリ然百行メ
ル三依テ地位人ハ舞相添テ振美ノ列ニ還御ナル御出還御ノ有様ニ
ハ云ニ及ヒ音樂堂山ニ鼓ヲ打テ感涙袖ヲウルヲヒリ翌廿八日ニ能有
旧座ノ中樂セリ四樂住師カイレトモ事ヲ不ルル地
氷室社　御旅所ヨリ北ニ当ル九月朔日ニ氷有長府給人ノ樂有ル
ヲ報ノ告ヲ受テ御旅所ノ鍬張ヲスル地是ヲ取リ来ニ小西ノ
荒神有ヲハ明星地ト云リ此宮ノ前ニ九十石有此所ノ人立花スル人彼
石ノ待ヲ見ニ氷成就セレ能氷成就セレハ童キト地

吉城川　大ガタノ人是ヲ高橋ト云

腸母子が衣かのくそかのくそ
ものうらいもめをうん事

同南ノ邊ニ武藏塚有ムサシ野ト云ニ有ムサシ野分ケ
ヤキ若草ノトヨミシハ武列ニ
ノ事ト云ヘリ日本記ニ云天武天皇ノ御駐小野多作吉
ト云人武藏ノ国ニテ多年在国シケリ病シケル地
子ヲ呼テ云ク我ハ武藏ノ国ニテ終ヲンヌト思ノイシヨモノ
外ニテ是ニテ死セシ心方シケ我ヲムサシノ国ヘ送ヘシト云

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

死ス後ハヤスシテ春日野ノ中ニ埋メ後ニ又ハカリヲナシ
レハ武藏ヨリ土ヲ運テ塚ヲ築ケルト也

鹿道辻

三枝川ト云ハムカシハ此所ニ三枝ノ渡ト云アリ
ノ人此川ニテ手水ヲ使ニテ下也是ヲ車ヤドリヘカル
ト也

綾度

盍語ノ人コヽニテ綾ヲセヨリ此宮ノ前ニ釵先ト云石
是ヨリテヌ処也

藤島井

綾度ヨリ一町バカリ上ル石垣ノ上ニ九廻
廊天明神默向ノ回有又西方濟土ノ
東門ヲアラシヲムトヨリ有ト也

春日御社四所御殿并御座也與福寺建立和銅二

年ヨリ平九年月 構徳院御宇神護景雲
二年戊申十一月九日三笠山ニ默向ヨリ已来此所ニ宮居シテ慈
悲方行矢并トアラワレ和光明ヲカヽヤキ利生アラタナリ
惣シテ此御山ハ玉天竺ヨウワセリ二千年経ニ湧造
宮者躰玉塩暉ヤキ帯ニ參詣ノ人袖ヲツラ子ヲトスヲワク宮人祝言
聲盤ヲ打ノ青幣三笠ノ雪ノ白髪ト云ヘリ
千磐屋ヲ建ル神乃恵乃ヲ乃ヲ乃ヲ
夜乃末乃末乃神乃乃乃乃乃

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

一御殿者盛雷尊
二御殿者祝主尊
三御殿者天津児屋根尊
四御殿者姫大神尊ニテワタツミノミコトヲセ玉フ
又釋迦　藥師　地藏　觀音モ祢ン奉ル也
我ヲモ乱釈迦牟尼仏サヨ〳〵
さやけき月乃世ヲてらそふ
別是大明神ノ御詠ニテ毛参詣ノ輩ハ現當二世ノ徳ヲ蒙ル
御殿ノ前ニ稲垣ト云者休憩ノ場ト云ヘリ百廿末社有正月上
申ノ日御田植有春日祭此ノ事也勅使来タテ二月上申日霜月上
申日両度有ト云ヒ歌道ニハ春ノ部ニ入依為神秘委細略之
御入講屋
御殿ノ御前ニ有御入講ト云吏諸人ニ多ク酒ヲ
モテナス也酔臥テ餘念ナキヲ神恩納受シ
玉フト也倍從神樂此所ニテ有彼御神樂ヲ奏ス
ハ眠ナラス榊ノ花開也其西ノ方ニカヘルヲ御手洗川ト云
春日祭之時勅使此所ニテ手水リメス也
攝本宮
參詣ノ人ハ御殿ノ板ヲ和事有是ニ依来ル事
有ト云ヒ此宮前ニ青淵ト云有此淵ニテ九

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

度始離ト云ヲカノ字リ

書跡乃不可勝計者

猶多則成佛

同シ亀鶴石

何ものとおもふ石ぞ八中百道

枚乃下枝葉加多く

日樓門 右南門ト云リ是ヨリ南ニ行方ニサヽヤカナル石有

是ハ南無堂ヲ御建立ノ沸時大明神此石ノ上ニ幸セタマフト也

諸人是ヲ見ンカ為ニ又其跡ヲ朽ス成石ヲ

所也其辺ニ地獄

地獄谷ト云右ノ方ニ参詣ノ外ヨリ見ルホキニシテトカリツヨシカレヤ

地獄谷ト云ハ多ク参詣ノ人軍ノ悪人ナリトテ云トモ又

ノ三悪道ヲノカレ彼ニ住シレメヘラント也又彼一切経ヲ納メル

所ヲ地獄谷ト云ヒ云リ今ハ深谷ニテ有ケルヲ幾

度モ埋シケレトモ成就也サル二依テ一切経ヲ次テ築入ケ

レハ則成就シケルト也左右ニ石燈籠アリ

若宮御殿 大明神三笠山ニ後給テヨリ二百二十五年目

一條院御宇長保五年癸卯三月三日巳ノ刻ニ於

若宮御殿若宮御出生中臣是忠奉拝見時風五代孫也其

後百三年申年月山崇徳院御宇長承四年甲
寅之一點二別社遷宮有其後三年月若宮神主祐
房直家神記保延三年丙辰九月十七日初高桑礼執
行給于先斯絶寛文七庚午五百三年成御桑礼十一
月九七日成事後花園院御宇寛正元年ヨリ也寛文七庚
午後凡百三年成也新能二月有于仕
能有今春大夫ヨリ始于四座次第せり祥殿于
神樂可奏之
抑一ノそもそもふの出女哉
神之妙ニこそ有けるめり
歌仙有此歌其家々ノ子孫遂ハシレ
神前ニ童ノ藤有御受花也
春日山おのへの雲ハ
さもあらばあれとはかるゝ
藤可受ニ給ノ事ハ人間第一ノ奢ノ
り結ヒス藤ハ升カリニシテ英リシレリ是ヲシレラ・レシトノ沸
シメシレ也可得心ト云御氏子皆藤原氏也
紀伊御社 若宮殿ヨリ紀伊沸社ニテノ間三天明神ト

梅尾明恵上人御対面ノ石有リ伊勢大神宮和州矢田地蔵ヨリ
ヲコシ祢所有般殿天黒天有此処ヨリ高畠ト云処ニ行道有
是ハ祢宜社家ノ権也其処ニ景清カ辻子大事堂ト云有
白血明神赤血明神ト云有是共ノ病ヲ治シ給フ也リヨ
リ新薬師寺ト云処ヘ行此薬師堂後夜鐘鳴テ霜月
廿六日(二時参礼)御振所(御出アルセ古ヘ飛鳥寺ト有ケレ此寺ニ渡ルカシ此
鐘ヲ彼寺ニテ鬼ノ撞ケル吠鬼鳥寺ノ灘法師鬼トラシ今テ
ルトセ其吠鬼ノ摩リタル跡今ニ筋付テ有灘法師
ヲ後ニ護ト命僧正トリ(ケルトセ又ヨリ鹿野園ヘスル
是ハ釈尊御説法ノ時ニ葉ヲ雲度也シトテ瓔珞細
軟ノ御衣リ脱鹿敬称衣ノ御身ト成玉テ四詩生滅
ノ御法ヲ説給ヘルニ鹿野園ヲ移ス処也
本宮嶽 大明神此処始テ影向シ給ヘリ委細前ニ
スワサセヨヒ紀伊御社ノ亀ヨリノホリ三
笠山ト云是也ニ峯有ニ笠山ノ雪ハ景ノ者ニテリ三笠山ト云ヒ山ハ
一リ有ド見ヘタリ

名のミして山も空にあり明の
明日乃春乃まもをいつくしむこと 母真之

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

若り代目なりも
みもにかもの(アリ)さ
くりを(アシロ)三笠の杜井引めも
もさまを祀れるかり物 中臣祐賢

御供所

此所ニテ御供ヲ調ル也御飯ニ枠羊春ケル也正五九月朔日ハ大藏綿匠房
ノ五升御供ト云事アリ東僕喜櫻ト者

船戸社

此御神ハ海上ノ船中ニテモリ給フ也

五十屋

本説義 唯識論 尾屋 釋迦
上屋ニ六 善神 西屋 地藏

新造屋釈迦御善遷申院屋共ニ六ケ処也本説義ノ寶物
ノ品々鐘有七月十吾ニ諸人ニ鐘ヲ撞也此鐘ヲ撞モノハ死テ後
親ニ逢ト云リ委儀皆略之弘法大師ノ細字法花経万里小路宣房
卿二字落花三礼五部大乗経惟茂異見平宗盛願状
住吉法眼賀茂贄焦尾扉風村上天皇ヨリ松室伸佐美ヘ
下サレシニ朋ノ子ノ扇ニ勅筆歌有
若り代七夫乃羽衣海れにもくなる
白玉ヲのもの色はそれ共あらぬ春ゝ
是ハ偏ニ計所執心ヨリミヒル者也偏ニ計所執ハ唯識(シキ)論ノ文

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

也慈恵大僧正ト松室仲篤林禁中ニテノ法問ノ次第勝也其(法)問(ハ)圓覺經曰衆生国土同一法性地獄天宮皆爲淨土有性非二爲成佛道

雲居屋

此屋(ニ)白川法皇御筆紺紙金字ノ法花經有與福寺僧一人一夏中籠テ讀誦シ給フ三年(ニ)滿(ル)之此屋(ニ)テ秘密御供調(ル)也委細略之

水屋社

年號天王也比前(ニ)弘法大師作リ給シ石灯籠有能ヲセリ西野田ト云処有祢宜衆棲也

四月三日ヨリ内吾道神樂有春日祢宜衆集テ

春殺川の世くもとめるわきこと子ら野男の早苗今やとるらん

日知圓院ト云有其処(ニ)十三重ト云塔有十三重ト云ハ十四重有其下(ニ)浮雲宮ト云有

麻苧の里初春ごとに染て春日ある三笠のみよ容雲の色

連歌発句

浮雲乃文字ゟ入ある時毎の郭

日前弘法大師塔玉ヒ舞有世中日照テ草木枯ヶ九旺

彼井ノ蓋明レハ世界平ヶ子ゟ大西降コト車軸ノコトシ文ヨリ雲ニ法花寺ト云有日遠(ニ)菜師如業在テス也

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

若草山　大永ノ人是ヲツミヲリ山ト云也

連歌ノ発句

あをやぎもしの雪や春乃こる

林鹿石苔和有浙迫ヨリ上ル水屋高山花山十ト云行道

有花山ニ三輿福寺僧達一集中楼ヨ楠給営歌ヘモ

同迫ヨリ行

春山春ハきてとそ知をとり水ぬるむ若草山腰中ニ弁慶石ト云有同岩ニ手力基ト云有言ン

彼処ヨリ牛鬼ト云化生出ケルト也毎春コノ山焼也モシや力也

八又力ノ化生出ケルト云伝有同林鹿ニ後御茶屋跡有

東大寺

△聖武天皇御建立地也方ノ角八丁有宗頭堂也取分倶舎三論華厳為宗ト

△三王有一方運慶作一方湛慶作也額文華厳

南大門

院ト有弘法大師御筆也家綱公御誕生ノ御取参良物中ヨリ度ノ能ヲ此所ニ勢ヒ十月

中門

△普賢菩薩作ノ畏沙門天有ケルヲ也今ハ名ノミ残リ跡ノミ也

大仏殿

△十六丈ノ尊像也額文ニ恒説華厳寺ト有弘法大

師ノ御筆也前ニ常灯有大秋人是ヲ知ス其ホニ大灯籠ノ右ノ
道半金ヲノベシリケルト云リ同シリ前ニ近年ニ方治承中ニ経堂立リ普平
重衡南都ノ大ノ衆ト軍シテ彼大伽藍焼ケテヒル其後修葉重源上人再興ス
テノヒテ年久シク有ケル処ニ永禄十年十月十日ニ又焼上ス其子細ヲ尋ルニ和州
信貴山城主松永弾正平蜘蛛ト云ヲ持使ヒケリモノ釜ト云ハ平蜘ヲ鐫付タル
湯ノ沸ケルカノ釜上ヲ這廻ル名誉ノ釜也信長公是ヲ望タマヒテ毎ニ
聚斂有ケレ共ヲ其遺根依合戦数度ニ及ヲ松永霜雪
南都多ニ籠城セシ時三好日向守下野守岩野成主祝勝
[illegible]

大将仕ニテ大仏殿ニ陳取テ有ツルヲ松永夜討ニスルヲ乱ケ
サレハ焼ケル焼テアタリ居ケルガ夜討ニアハテ、逃テドイケルニ彼火
アナタコナタヘ三四町無双ノ大伽藍ノ三昧ニ焼上リト云ヒ随風ニハコモ
タメラス前時ニ空中ノ雫ト成今ハ石ヲヘノ苔ニ残ルノミ
二仏像ヲハ朝夕ノ霜露正躰ニ近キ仏屋ヲ作リテ有
ケルヲイトイ奉リニ口モ是モハヤ修葉ヲ加ハ又九三人ヲヒ
カハル是陽ノアレハツル事来ル世トハ云ナカラ悦ノ涙ヲ
事ヒニ大仏殿ヲ月時ニ供養ヲ表ヲ奉ハ千年慶ヲ而長
二天五天有ケル仏ニ供養ニ小平清ヲ文ニ回リ

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

我等爲興福天下可興復
我等力衰微天下可衰微
石清水有殊祈ト云有大事ノ義有之歟
八幡ノ
池ノ中ノ社ニ金ノ龍捨玉ヘリ云ヘリ
大事ニ龍失スト云ヘリ二東大寺ノ
二天有ルトコロ西ノ海ニ新羅ヲ攻ントテ
入給ヒシヲ西ノ海ヲ毀(コボチ)テルト云ヘリ
光ハ靈實ノ住也給ヒシ所ニ
東南院 日九年二破壊ヲクワテハリ宮ヲ
觀ハ破壊ノ昊實メリ又此所ニ院宣
ヲ降シ院宣ニ施テ院宣ヲ給リ給テルヲ
ヲ降シ院宣ニ施テ院宣ヲ給リ給テルヲ

院ヲ云ニ依テヲノ院宣ハ元弘ノ
干曲山 八幡ノ東ニ
ノ宮ハ御ヲ元弘ヲ干曲山ニ
當山ニ元ヲノ勝軍ヲ祈ル
法人此院ヲ權也院ノヲ云ヲ云
院號ヲ云ヘ 皇同ノ二年八月ニ
陽二年ニ石ノ東ヲ等院ハ
三味ヲ 乃和ヲハ池ニ非ニ赤圓慶ヲ
舍利ヲ靈ヲ有ヲ法人院ヲ

有傳依之參詣ト云ヒ沙門ノ姿ヲ
ヤ笈ヲ吹一首ノ哥ヲ詠メテフ
笈ヲ吹蓮ニ乞ふく此意ヲ作
能登守ノ子稼ヲ圓空脊写
任二年ヲ経タリ私ニ是ヲ尾羽年久ノ託スレハ終ニ不
是ヲ知人稀ニ日ニ二俵ヲ与ヘ
ト有日往障ニ度親ニ人自ヲ
等ニ哀ニ年号有ホリ物ノ作者ハ陳和往ト云唐人
此年号日ヲ小ノ言成ニ二俵ヲ与ヘ

又ニ云話有此ニ哀ノ事ハ東ヲ等速ニノ時陽ヲ沸
セニ云ヒトニ仁徳ニ天平有ニ新ニ此有ニ水
ヲアビルモノ余脚カラス日辺ニ大キ成風ニ有ニ
ヲ云ニ

一本ニハ同珍ニ新遠ニ
新遠ニ之事ヲ天有又住浦長
有何モ安阿珍ノ作ニ一本ニハ定ノ
師別有トヘリ其辺ニ有実ニ
日ニ三平親王将門ノ石ニ
注華ニ

一本ニハ度ニ不ニ豊前ニ
云金ニ寺ニ云又ニ師如来ニ有ニ

有八棟作之紫雨ニテ跡等スルヲ者沈香ノ樹ニ銀香
ト云有ケルト也香ノ渡成蜂ノ巣ト云ハ本地観音菩
良峯宗貞ヲ寺ヲ云ヒ平親王将門ノ軍ノ取沈神
蜂ニ成給ヒテ将門ガ甲ノ手ヲ食ヨリ入テ忽ニ殺シ給フトカヤ
沈所ニ依軍ノ跡ヲ治ル者多シ
方成ヲ四月廿ト云ヲ日ヒタリ沈香ノ作ヲハ下ノ面ニ者ヲ
沈作ハ濃ヨリ下ヲ云リ又淡ヲ者ヲ
沈花弁有ヲ濃ヲ淡ヲ二色ニ成ヲ云リ昔ニ良峯秋ト云有
良峯宗貞ニイマダ雅アリシ時御製孤雲ヲ秋ノ下成石ノ上

二月廿ケルハ花ノ下ヘ先ヲ御髪ハ落作ヲ者
ヲ云ヒトヲ云リ良峯ハ和尚利山大山寺ヲ云ヲ
リ南ノ方ニ有竜住沢ト云有ヲ
二月廿
三四二布施ヲ取ヲ云リ宴忠和尚山ニ笠ヲ
テ沈行ヲ有ヲ滝ニテ二月廿ト行ヲ
ノ滝ヨリ下ヲ大ノ口ヘ流テ正ニ取ノ廊ヲ
テ行所ニ至ヲ二ヲ拝ヲ梯ヨリ
ヲ名ヲ石ノ上ニ奉ルト云リ行ノ

トゝ云事ハ行ノ傍ニ井二命テ名後ヘ
トノ座ヨリ則取細流ヲ水流ヲ井二作レリ故ノ名後国
毛里明神ノ末流川ヨリ来ルトゝ彼ノ
神ノ彼井主トスモテルノ悪毛悪神ノ名後
トゝハ日分ヲ主列ノ女神祇ヲ来
能ノ見物ニテ九時童ハ参詣ヲ忌トイヘトモクルニ当ラズトゝ云リ
行ヒ七日トヒ二月ニ大キ成松明ヲ焚
多ノ束テ彼松明ヲ奇特テ座元ヘ
北ヘ外不思儀多ル又御厨ノ園ヨ
成鏡ノ二鶏明神トゝ云有是ハ若狭国ヨリ彼井ハ移流来ヲ
此所ヘ分ケテルトゝ也童ノ千二詞利帝毎宮有法華経ヲ守リ給ヲ
鬼ヲ毎神ヲ祓リ云ニ依テ拓植ヲ御受ヲ木トスルニ近年ハ千
園ヨトゝ事ハルヨリ不行人園ヨリテ作リテ彼宮ニ備奉レハ少
ヨリ儲ケニ実ニ又不思儀有寛文七年未二月十四日来明二
二月童内陳ヨリ火事出来ニテ童残テ
リスホモソコヨリ又船ワスカリ〳〵ト御座ヲ焼ルニ
猶又童内ノ泊清陽成ヨリ着ヨリ此
仏来世時帝ヲ依テ大事中二落ル人多
ヒ完二希代感御事也

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

是ハ阿弥陀如来法蔵菩薩ト申奉ル時ヨリ衆生ヲタヤスク
往生ヒトシメ給ントテ五劫ノ間思惟シ給シ御心ヲ尽シ腹サセ
給ヘル胎ヲ善道大師作リ給シヲ是ヨリ成実ノ宗ノ方迄蔵ト云処ニ安元有
後安本ノ人々佛殿再興ノタメ渡唐ノ時西海ニテ遇ヒ奉ル人ニ語奉ルニ
奉ルト曰ク唯今奉ルニト細ニカ、リタル物ヲ唯今奉加セヨト細
引トテシハ大キ成ル一ツ折リタリ取テ御渡スルニ来ル天竺天佛殿ト
云文字ヲ有テ中ニ筥ヲ有筥ヲ是ハ大佛殿成就ノ陽相ニト喜
悦シタテ取テ納リ彼所ニ置給ヒヨリ如ク九ル物ヲ唯今奉加セヨト
云ヒシ人ハ人ニ非ス物ノ化ヲ有ト
此寺ニ井有是ハ善無畏三蔵ト云人大唐ヨリ渡リ大和
国ノ当寺ニ寄ヲ建テニテ真言ノ法ヲ弘メ給ヘル庭ニ機
ノ在ル時ハ此井ヨリ水湧出ル故ニ閼伽井ト云ヒ伝ヘタリ
南都ニ来リ此井ヲ掘給ヒ法ニハ此所真言ノ法ヲ弘メ給ヘト云宣給ヒ
ケルトコロニ屋弘法大師此寺ヲ建真言ノ法ヲ弘メ給ヒ
雲ニ漏給ノ音絶ル間モナカリシニ大師入定ノ後ハイツノ比ヨリカ行ヒ
ノ聲ニ絶ニテ行ノ有ヲ覚ヘ有堪長ノ夢ノ露古寺ト成
スルハ雪ノ庭ヲヌル人モアラヌ哉ト詠ヒ毎ニ月廿一日ニハ御歎法
ノ法事有テ諸人神ヲツラヌクヌヲツキケルニイツ比ヨリカ成敗ノ有テ
寛永年中ノ頃火ニ焼リ筥ハ焼失ス法ハ庭儀取繕ヒ実校ノ
ニサノ井ト云談ヒ説皆是ニ異言トモナカラ三會ノ暁遥ニ遠ニ非

ハ何ゟ云ハ誰カ開ゟ云本不生ノ利ニモ徹達セニ然ハアレト近代ノ
并興有テサレ氏法義隆ノカクノ居給ニ依テ大師ノ御
影モ茉門ノ輿言院ト有五筆ノ額モ傳タレハ今ハ其侭
有ニ皆又物トテハ無最後ニモ筆ヲ加ル井水ト改ケレ月達ルノ
ニ有唐樽変ノ世ノ体トハ云ナカラ卅
新禅院 徐宗也如意輪觀音御座也又弘法大師ノ御筆納
納金ヨリノ心經有同三鈷獨鈷有大師ノ修給ニ七井有ニ
此寺ニ度有キ
ニ
ノ
ニ

ありの○といふ物の
ニ云事ニ海
見ゆるり
ゆるる
ゆるる
ゆるる

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

戒壇院

又繪像ノ釋迦ノ三尊同ナク十六羅漢有數軀ノ筆也

又法廣ノ作愛染明王有同辺二東大寺東塔ノ跡有

釋迦之御本尊八千年觀音白河院安置佛ト云リ

受戒堂

此堂ニ古ハ印度ヨリ渡リケル戒壇ト也弘法大師彼土ヨリ取給ヒテ空海寺ニ有ト云傳ル也此堂ニテ門跡達戒受給ル也

穀屋

御本尊八阿彌陀如來也淺有此僧ハ花園務舍ノ後ニ有ト云ヒ安ノ官有

四聖坊 聖廣行基 婆羅門良辨是等ノ像人

建仁寺ニ知成二位ヲ祀ル行基ハ鼻ノ人也
奉成ヨリ善慶ヲ以テ羅漢ヲ祭ル天竺ノ
僧二ヲ有テルヲ東大寺供養ノタメ行基并ニ給トニ
ヲ請ジ羅門僧正行基ノ御手ヲ取給テ
霊山八釋迦の御ために笑くぼに眞如行ひ給ふ羅
行基并ノ御迹
迦四尺羅漢ニ笑ヒ甲乾ヲ
行基ハ普賢并ノ化身ニヲ御座敷
迦陵羅門ハ文殊ノ変作ナル依テ文殊ノ御良トハツラル

知足院　律宗也御本尊八地蔵并ニ春日大明神ノ御作ナリ
毎二月十五日二行ヲ祀給梅賣ヲ校ナカラ備ル
事有南ノ方二ヤ五所山ト云有是ハ東大寺再興ノ取積進
濱雲ヤル大工尼五人有後常上人心ヲ以テ見給フニ依ル上釜リ初
ヤ五ノ并ト歌ヒ光ヲ放屋空ヘトラセ給ヒニトニ云証二言有

寶藏　勅封ニ石野泥水紅蘆蘭奢侍等ノ名香有リ
其下二鉢ヲ読ヲ置二自然二油涌ルナリ此等ノ木ヲ伐
二十石平貴ノ種浅有同名兼有御所ノ津有屏風有波屏風

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

十八丁西光明皇后ノ御手法華経ヲ
南ヲ津坂トイヒ小ヲ飯坂ト云ヒリ小二
天狗住ケルトニ昔辺二久リタメラフ
空海寺
弘法大師住セ給ヒシ処ニ石ノ洞ノ内ニ地蔵并ヲ作リコメタ
ハ定ノ化仏トモ此後成仏ヲ友等トハ有ヒテ
リ今ハ一宇モナシ此保山モ此ヲキトニ
此保山ハ峯有霞ハヒタヒヒラミタ
川ヲ御手ヲラヒラミタ
其辺ヨリ流ヲ此保川トモ大日タノ人是ヲ今在家川トモ昔ハ
ヨリ此保川ノ筆ハ景ノ事ヨリ此流ノ千ヲ此保田トモリ
夕ヲモハ此保川ノ筆ハ景ノ事ヨリ此流ノ千ヲ此保田トモリ
此ヲキトヲ衛ヒラヒラミタ
紀友則
五劫院
御本尊ハ阿弥陀如来ニ前ニモイヘルコトク是ハ上院ノ
阿弥陀ト同作ニ善通大師作給フカレハ六八ノ御願成
就ニ給ニテ今西方浄土ヲ儲給ヘリ善通ハ是弘法ノ舎ノ化身
テ末法出世名善通則是弥陀化身ト名ヲ給ヘル誰カ是ヲ
疑ヒヤ漢世来代尊而尽切衆生易往生ムヤニロラス可頼々々
善通能如来ノ尊像ヲ三躰作リ離テ大唐ヲル長者ノ館テ

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

ニテ、ソノ佐平山皇流天佛殿ノ再興ノ大願ヲ成就シ、ソノモトニ至リ給フ長者、御本尊ノ奉加ニ奉ルノ後、三躰共ニ手リテ帰朝セントシ給フ長者ニハ二躰ノ尊像ヲ賜ハリ、ソノ殘多キ更ナリトテ一躰ハ震旦ニ殘シ奉ルノ後、又是ヲ殘シ多思召テ彼殘リ給フ一躰ハ當寺一躰ハ上院今一躰後ノ御作ハ興福寺ノ内貿院ト云ニ御座也

御本尊ハ師利文殊并也毎三月廿五日ニ諸人參詣

般若寺

又此邊ニテ布ヲサラス北ニ奈ヨ坂有是ヨリ山城へカヽル

南ニ笙ノ窟都婆有是ハ弘法大師ノ御作

世流邊ヨリ西ニ眉間寺ニ入ル聖武天皇ノ御廟有又法華寺

ニ入ル前ニモ云光明皇后ノ御寺也又不退寺ニ入ル業平ノ御

歌有又芝原伏見山ニ入ル天神ノ社有宇賀神ノ宮有蓬

萊山ノ表ス山有又薬師寺招提寺西大寺相ツキテ見エル

南ニ飛鳥里ニ入ル南辺ニ興福寺ノ権僧正行尊ノ石塔有リ

同ク二十八間ノ屋躰有阿閦寺ト云有是非人穢之

其所ニ悪心僧都ノ御輦発陀ノ三尊有諸人詣之

善鐘寺　此寺ニ権作ノ閻魔大王有大欲ノ人是ヲ閻魔堂ト

云同地藏并有悪心ノ御体弘法ノ御筆也又板繪ノ弁五并
有悪心ノ御筆ト云同所ニ五筆ノ名号有前ニ云本談儀ノ鐘
彼ノトヨリ出テ此寺ニ有其後本談儀ヘ渡リテ此ト也南ニ源
頼朝公大佛供養ノ取悪七兵衛景清ニノヒケルヲ於ハサレテ
祇父庄司重忠ト戦ヒ云轉害ノ門ト云有

高社八伊弉諾伊弉冊尊ノ御子素盞嗚尊也出雲
祇園社 國ニテ手摩乳足摩乳ノ女稲田姫ト契テ也給ヒテハ妙
天兎ノ随ヘ給ノ尊福田姫ト住也給ヒケルニ
八雲ヲ詠ハ此ノ尊ノ御事ヲ

ぞ八重垣つまごめに八重垣作るその八重垣を

是三十一字ノ詠ノ始也サレハ和歌ノ道ニ心ヲヨセル人ハ作テモ
アヨクヘキ御神也 清和天皇御宇貞観十一歳ニ御託宣
有テ城郡ニ岩郡ニ移ニ奉ル其後又此地ニ勧請ニ奉ル也
牛頭天皇ト武答天神ト申奉ル也蘇民将来ハ天竺疫病
ノ時モツミニ子孫ハ除カセ給ヒ也和州ノ子供ノヘリニ蘇民将来
ノ子孫ト有小札ヲカケルモ是也南ニ従井ト云有昔良勉中
ヨリ茶ノ水ニ用之
今ハ此ノ用ニ堪ヤ涸ヌラン
そゝいつよれいこゝ井の水

小所ノ南ヨリ西ニ次第ニ大小同南ニ東大寺西門ノ跡有
其額文ニ曰ク 金光明王四天王護國寺
雲居坂 雲居坂北ノ南ヨリ出水ノ上ニ渡セル
雲居坂ノ南ヨリミトリカ池トス云ヨリ出水ノ上ニ渡セル
車轅橋 弘法大師渡
卿ナル橋ノ東ノ橋行人八景第五也
唐ニ船ヒニ取唐人ノ問テ曰日本ニハイカホト大キ成橋有トス云フ
空海答曰日本ニハ車三輛ナラヒテ三木ワタス橋有唐人ハ云
木ヲ三月ト心得備ハ九十日ワタル歟シキ橋也トヨミウサル二
依テ今モ木ヲ三ツ渡ス也横橋ヒロクシテ車三輛ナラブユヘニ

興福ト八名ケルト也權有ノ知ヲ以テ改キ橋ヲ歟ク云ナ
ニ我朝ノ名ヲ得タリ
是ハ所ニ云傳タル事也怪成説來聞
奈良町 伊勢物語ニハ奈良ノ京春日ノ里ト有
石鏡ニ奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬるかな
奈良帝
往古ノ奈良ノ都ト八云ヒ今モ所ニ繁昌シテ賣買ノ屋欣
ノ前ニハ金銀ノアツカイ廣ク家々富ニハ且タノ煙アツシ
人ノ心スナヲニシテ賢ヲ學ヒ天地ヲタヤカニ國土安穏

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98
ガラス使用

862
98

10592

成モヒトヘニ大明神ノ御憑ナカ中ニヘ地作テモアヲク
ヘキ雲良ノ宮寺成ヘシ

寛保十五庚戌歳
三月十七日

三宅貫勝写

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『南都名所記』　請求記号 862-98

ガラス使用